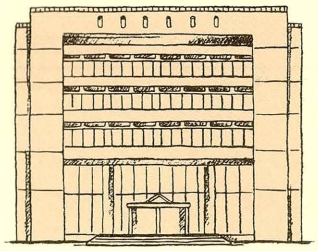
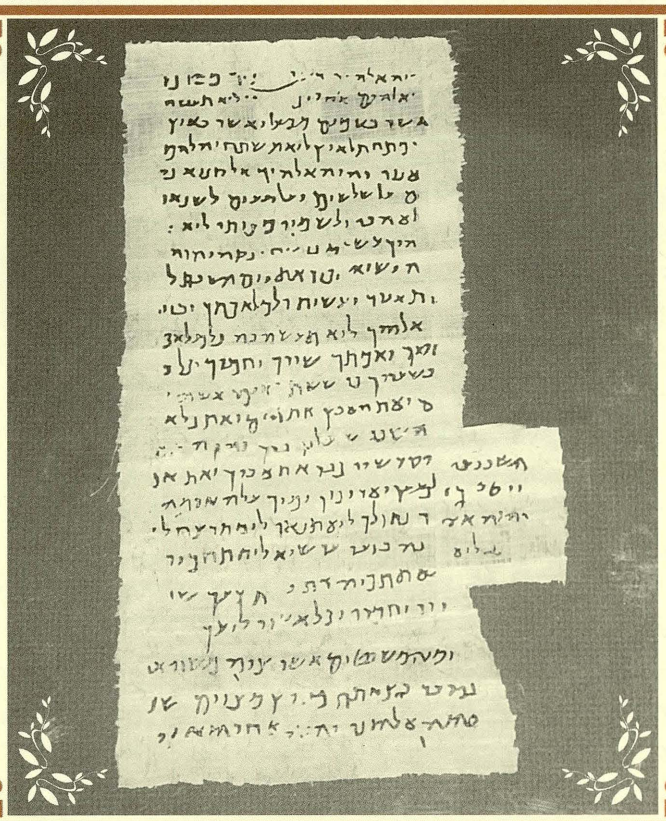


西南学院大学

図書館報

No. 145
1998.10



ナッシュ・パピルス 前2〜1世紀頃（?）複製品　（西南学院大学キリスト教資料展示室に展示）

ナッシュ・パピルスは、旧約聖書本文の写本としては最古の写本の一つに属する。
この「ナッシュ・パピルス」という呼び名は、1902年、このテキストをエジプトで入手し、英国のケンブリッジ大学図書館に寄贈した英国の聖書考古学会主事だったナッシュ（W.L.Nash）に因んでいる。

《目　　次》

「みんなのための図書館」…… 経済学部経済学科教授　伊藤治夫 …… 2
インターネットによる情報検索 …… 整理課　品川壽子 …… 3
「雑読」のすすめ …… 文学部英文学科教授　江崎義彦 …… 4
読者論的読み〜『近代読者論』（外山滋比古）〜
…… 文学部児童教育学科教授　生野金三 …… 4
難解なもの、手に負えぬものこそ …… 文学部国際文化学科教授　岩尾龍太郎 …… 5
サリンジャー …… 法学部法律学科講師　山田憲一 …… 5
私の図書検索方法〜OPACの使い方〜 …… 文学部国際文化学科　4年　永田香織 …… 6
私の図書館利用テクニック …… 法学部国際関係法学科　1年　大坪勲 …… 6
新着図書・視聴覚資料紹介・お知らせ …… 7〜8

「みんなのための図書館」

経済学部経済学科教授 伊藤 治夫

〈学生がうらやましい〉

新装、拡充した図書館は自慢できる。ゼミの卒業生が何年ぶりかで母校西南を訪れると、つい図書館の充実ぶりを案内したくなる。彼らがもらす感想は、「図書館が立派になって、今の学生がうらやましい」、「学生時代にもっと図書館を利用しておけばよかった」、「図書館も近代化・多様化して驚くほどだ」、「社会に出ると、図書館のようなゆったりした雰囲気に触れることは残念ながらあまり無い」など様々である。

確かに一般的にみても、今の図書館は、大学図書館も、公立図書館も、ずいぶん立派になった。建物が大きくなっただけでなく、設備も、蔵書も、充実し、利用者の便宜が図られている。というのも図書館というものの考え方も、イメージもかなり変ってきたように思われる。ひと昔前までの図書館は、どちらかというと、極く一部の研究者や、熱心な学生が、本（しかもまとまった単行本などの堅苦しい本）を求めて利用されているといった具合で、その利用が限られていたようだ。しかし近年、どの図書館も門戸を広めて、利用者が利用しやすいように、入りやすいように、したがって多くの人に親しまれるような配慮がいたるところでなされている。

〈もっと気楽に〉

図書館も「利用させてやる」発想から「利用者に便利なように活用してもらう」という発想への根本的転換によって、利用者はその恩恵を存分に受けられるはずであるが…。

町の図書館でも最近は、平日にはママと小さい子供達が、また日曜日などには近所の男性諸氏も本を探しに集まって来るといった風景を見るとほほえましい。子供達にとっても、家でごろごろとテレビを見ているより、よっぽど“想像力”（創造力）がふくらんで、楽しいのではないだろうか。このように今や図書館は、決して極く一部の者達の堅苦しい所ではなくなって、利用の仕方によっては快適、かつ有意義に時を過ごすことのできる場所・空間となってきている。うらやましいと思われるまでに充実してきた図書館からの恩恵を十分に受けられるか否かは、利用者自身による。大学図書館の場合も、学生自身、“勉強の場”とか“堅苦しい”とかいったイメージを脱ぎ捨てて、もっと気楽に入館してみませんか。分厚い本だけでなく、和・洋とさまざまな雑誌も、新聞のバックナンバーも、写真集やビデオも、情報機器類も、そして専門書も小説も、貴重な資料も、およそ知的好奇心をそそる材料が一杯詰まっているのが図書館です。

試験の準備の時も、静かな雰囲気の中でさぞ能率も上がるだろうし、卒論の準備には欠かせない資料が発掘でき、専門の勉強を補強してくれる資料もさることながら、専門に疲れた頭をいやしてくれる軽い読物だって豊富にあるはずです。

〈近代化、多様化〉

本を探す手間も今ではずいぶん簡素化されています。かつては図書カードを一枚一枚めくっていたのが、今は情報機器のワンタッチ操作で簡単に調べたい本が検索できるようになった。本の中の必要な部分は近くのコピー機で短時間のうちに複写できます。専門別に分類されている開架コーナーや、雑誌・事典類のコーナーでは自由に手にとって閲覧できるのも魅力です。しかも館内の要所には問合せのための電話まで設置されているから、資料探しで困った時などに大変助かります。

今の図書館はまさに多様化している。本学の場合も、図書だけではなく、ビデオ、LD、CDなどの視聴覚資料も用意され、AV コーナーも一層拡充され、TV でニュースやドラマなども視聴できる。また館内には情報処理科目受講者が自由にパソコンを使用できる SAINS ルームもある。

さらに本学特有のものとして、誇れるものがあります。とくに筆者のように中東など発展途上国や国際経済をウォッチするには不可欠な IMF や世界銀行（IBRD）などの資料を収集した「国連寄託図書館」が２階に附置されていて、世界の国々の最新の経済状況等を把握するのに非常に役立っています。国連寄託図書を整備している大学は全国でも限られていて、本学のそれは、整備状況からして全国的にも高い水準にあるものと自負できます。

図書館はあなたがたを待っています！

インターネットによる情報検索

ここ数年インターネットの利用者が急ピッチで増え続け、21世紀には多くの人が日常的に使うインフラになるだろうと予測されています。

本学でも学内 LAN “SAINS” が構築され、図書館の SAINS ルームはいつも多くの人に利用されています。

今回はこのインターネットを利用して、どのように情報を得ることができるか２、３紹介したいと思います。

例　1

福岡市博物館展覧会案内の「幕末の文化人展ー大隈言道とその周辺ー」の大隈言道とはどんなひと。

http://www.goo.ne.jp/

キーワード入力：大隈言道。検索設定：人名。ヒット数が多いので１画面の表示数を最大の100件（初期設定は10件）にしてページをめくる回数を減らしましょう。この検索で17件の関係情報を得ることができます。

大隈言道（1798-1868）幕末の歌人　福岡

例　2

山之口貘ってだれ。

http://www.infoseek.co.jp/

「goo」で検索したらノーヒットだったので、ほかのサイトを使ってみました。このサイトもヒット件数が多いので１、２ページの様子を見ながらキーワードを追加して絞り込むと良いと思います。キーワード：山之口貘｜詩人｜沖縄。この検索で６件の情報が見つかりました。

山之口貘（1903-63）昭和初期の詩人　沖縄

検索語によってはヒットしないこともありますので、サーチエンジンも辞書などと同じように複数を調べたほうが良いようです。次のサイトもよく使われています。

http://www.excite.co.jp/
http://www.yahoo.co.jp/
http://www.infonavi. infoweb.ne.jp/

例　3

上記二人の文献としては何があり、どこに所蔵しているのか調べてみましょう。

本館の OPAC で探すと山之口貘作品集が１件見つかりました。

目録所在情報サービスホームページ
http://www.cat.op.nacsis. ac.jp/

この中の「webcat」（600を越える大学図書館等の総合目録データベース）で探してみよう。漢字の検索語ではヒット件数が多くありませんが、カナ検索（オオクマ　コトミチ）で探すと各々６件、12件見つかりました。どこの機関が所蔵しているかも知ることができます。

九州大学附属図書館ホームページ
http://www.lib.kyushu-u.ac.jp./index.html

九州大学附属図書館の OPAC、他機関 OPAC 横断検索ができます。横断検索は５機関くらいを指定して検索すると、一度に各々の機関のヒット件数を表示してくれます。

「webcat」「goo」や「infoseek」などのサイトを見にゆくこともできます。

他にもいろいろ見ていくと筑紫女学園短期大学のホームページ（http:www.lib.chikushi-u.ac.jp/）に内分泌攪乱物質（環境ホルモン）リンク集などの興味あるサイトがあったりします。

このようなサーチエンジンのアドレスを「ブックマーク」や「お気に入り」に登録して自分用のリンク集を作ると便利だと思います。

インターネットを使っていろいろな情報を探してみるのも面白いと思いませんか？

整理課　品川　壽子

「雑読」のすすめ

文学部英文学科教授　江　﨑　義　彦

今私の手元に、刊行中の「太宰　治」全集（筑摩書房）の最初の２巻があり、同出版社からの「世界文学大系」の最終巻『ジョイスⅡ、オブライエン』（これで長期に亙って刊行された全89巻が完結）がある。私の学生時代には、様々な出版社から「世界（及び日本）文学全集」がゴマンと刊行され、いずれもがベストセラーになっていたのだが、いつの頃からだろうか、社会に平均的な中流意識が浸透し、安っぽい美学（各種のレジャー、TV 番組）とコンピュータなどの機械崇拝が蔓延し、平和？な時代になると共に、すっかり文学が読まれなくなり、出版社もそのたぐいの文学に手掛けなくなってしまった。そんな中で、現在唯一の「世界文学全集」とも言うべき「体系」へかけた筑摩書房の地味な情熱に敬意を表したいし、その中で品切れになっていた分も、来年１月には再販予定という、その読者への配慮が何よりも嬉しい。我が図書館にはその全集が完備しているので、未知の人はまずそのコーナーへ行ってほしい。

宗教が滅んだあとでも生き残るもの、それが文学。これは哲学者クリステヴァの言葉であるが、学生時代にはその実感を得るべく「量をこなし（雑読）、質を磨く（精読）」、そんな読書が必要であるだろう。その意味でも、「読書の秋」こそ思いっきり長編に挑戦する。例えば「体系」のなかから、『カラマーゾフの兄弟』『罪と罰』、『ジャン・クリストフ』、『失われた時を求めて』、『ファウスト』（それぞれ、誰の作品か知っていますか？）など、一方で、前記「太宰」文学、『三四郎』以下の漱石の３部作、ごく最近では、大江健三郎の『燃え上がる緑の木』３部作など、いずれも私が愛読したものを列挙したにすぎないのだけれど、大袈裟に言えば世界が変わり、キザっぽく言えば、自己が変革させられる、そんな類の作品であること、請け合います。（古典ほど新しい？）

紙数の関係で以下、文学作品から離れるけれど、「雑読」には恰好の、しかも廉価の紙装版で、今年前半に出版された名著を列挙します。（１）高橋裕子『イギリス美術』（２）上野美子『ロビン・フッド物語』（以上、岩波新書）（３）谷川渥『形象と時間』（４）竹田青嗣『現代批評の遠近法』（以上、講談社学術文庫）（５）渡辺二郎『芸術の哲学』（ちくま学芸文庫）（６）古東哲明『現代思想としてのギリシア哲学』（講談社選書メチエ）。それぞれ、解説が必要であるが、今は（５）についてのみ。難解なニーチェ、ハイデガー、ガダマーらの「存在論美学」を、素人にも分かりやすく説いている傑作。昼食やデイト抜きででも、ぜひどれか１冊は購入すべし。

読者論的読み　～『近代読者論』（外山滋比古）～

文学部児童教育学科教授　生　野　金　三

最近、読むことをめぐって、読み手の立場を重視する「読者論」ということが頻りに唱えられています。これは、「読み方の進歩主義」とでも評すべきもので、いくつかの新しい提案を含んでいます。読者論に対して、垣内松三（かいとうまつぞう）等が提唱した解釈学は「読み方の保守主義」とでも評すべきもので、現在においてもその伝統は受け継がれております。

ところで、この読者論ですが、それは読者受容理論と言及され、日本ではイギリスのＩ・Ａ・リチャーズの考えを受け継いだ外山滋比古が『近代読者論』という著述によって紹介しております。外山は、読むという行為をめぐって、「『読む』というと、とかく、受動一方の作業のように考えがちであるが、これは正しくない。すでに見たとおり、選別力の加わる積極的な精神の活動だからである。〈中略〉選択を通じたクリエイティヴな活動であることに着目するのである[1]。」とし、更に、「『近代読者』とは、読むことに自意識をもつ読者というほどの意味である[2]」としています。外山は、読むという行為は、読み手主体に依存するものであり、また読み手の意味充実によって新たな意味の世界を醸し出しつつ、自己覚醒を図り、自己伸長に資するものであるとしております。これが、読者論的読みの様相であります。外山は、読みの様相を内省的に捉え、しかもそこに読み手の主体性を重要視していますが、斯様な読者論的読みは、国際社会と言及されている今日においては迚も意義があります。それは、主体性意識の乏しい我々にとって、斯様な読みの姿勢は極めて必要であると考えるからです。読者論的読みの場合、恣意的な読みを助長するのではないかという懸念もありますが、それは読者が作品構造と厳しく対話することによって払拭されると思います。

この秋、『近代読者論』の著述を糸口として読みのあり様について思索されてはいかがでしょうか。

注１）　外山滋比古　『近代読者論』（みすず書房）PP.64～65。

注２）　同上書　P.357。

難解なもの、手に負えぬものこそ

文学部国際文化学科教授　岩　尾　龍太郎

関　広野『プラトンと資本主義』（北斗出版）
P・ヒューム『征服の修辞学』（法政大出版局）
I・イリイチ『シャドウワーク』（岩波現代選書）

一般に読書指導は、難解なものには手を出すな、広く読まれている平易な本をこなしておきなさい、と語るのがつねである。しかし大学生が世になじんだトレンド本の消化に終始してはならない。既存の方法はかならず鈍化し頽落する。現状分析は理論的内破と切開を求めている。アドルノは挑発する。「難解なもの、手に負えぬものこそ、お誂え向きだと思っている学生の無邪気さの方が、複雑なものに手を出す前に単純なことを弁えておれ、とおどしながら思想を戒める世の大人たちの狭い了見より賢明かもしれない」と。

西欧の科学・文芸・制度を駆動してきたのは、プラトン主義とキリスト教が結合した或る観念装置である。それは戦争状態を抜け出た古代ギリシャ文化が類い稀な形で形成した現実了解の知の枠組み（科学・演劇・政治）を解体し、不在の現前（イデア）を代理表象しながら騒々しい改造を続ける悪無限的な運動に世界を引きずり込んでいった。この見通しのもとに西洋思想史を通覧すると、プラトン主義が成形した知の制度、西欧の官僚制、ピュリタニズムの禁欲倫理、資本制が通底していること、これらに正面からぶつかった思想家としてのマルクス、ニーチェ、フロイトが見えてくる。現代思想（ラカン、アルチュセール、フーコー、デリダ、ドゥルーズ＝ガタリ）は、意匠は様々だが、この対立構図のバリエーションである。

関『プラトンと資本主義』は、この巨視的展望をもちえた数少ない本の一つである。これを補うとすれば、植民地支配・奴隷制、あるいはこれとパラレルに、家事労働が、西欧文明の根幹と絡みながら隠蔽されてきたという論点だろう。ヒューム『征服の修辞学』は、イデオロギー装置としての植民地言説を暴露・分析して、ポストコロニアル批評の論点を、またイリイチ『シャドウワーク』は女性の家事労働への封じ込めを暴露・分析して、フェミニズム批評の論点を追っている。いずれも非常にハードな本だが、論旨は鮮明かつ強烈、パワーある読者を待っている。

サリンジャー

法学部法律学科講師　山　田　憲　一

最近読んだ本の中では、ポール・ギャリコという人の小説が割と気に入っています。新潮文庫から何冊か出ていて、どれも、暖かみを感じさせるいい話です。ただ残念なことに、これらには、歯ごたえのある内容に接したときの充足感みたいなものは、あまり期待できません。ものを書くことに関して腕のいい職人ではあっても、自分の思想とかそんなようなものを作品に盛り込もうとはしない人なのでしょう。

で、も少し中身のあるものを読みたくなって思い出したのが、しばらく前、どこぞの書店の新書の棚で、サリンジャーについて書いた本が平積みになっていたことでした。

サリンジャーは、私にとっては、ピンと来ない作家です。例えば、『ナイン・ストーリーズ』という短編集の冒頭の作品は、精神に異常のあるらしい男が二、三変な振る舞いをした挙句自殺する、というだけの話で、読んだ私は、「あんた、何言いたいねん？」という感想しか持ちませんでした。けれど、この人の作品は、ギャリコとは異なり、しばしば議論の対象になっていると聞きます。おそらく、作品の中に詰まっているものはちゃんとあって、それをこちらが掴まえきれていないのでしょう。そこで、何か手掛かりになるものを読んでみよう、と思ったわけです。

ところが、困ったことに、新書であるということ以外、著者も、タイトルも、出版者も覚えていません。書店の棚を見ても、それらしいものはありません。仕方なく、目録でも見せてもらう心算で店の人に声をかけました。

すると驚いたことに、その人は、あっさり「ああ、それは中公新書ですね」と言った上に、他の最近出たサリンジャーに関する書物のことまで教えてくれました。欧米とは異なり、日本の書店にはまともな商品知識を持った店員がいないという不満は時折耳にします（書かれたものとして、吉田秀和「本やの話」同『響きと鏡』（中公文庫）所収）し、私もこういうシチュエーションで店の人に期待したことはなかったのですが、その常識（？）を覆す、これは嬉しい体験でした。

それやこれやで手に入れたのが、森川展男『サリンジャー』です。彼の作品の分析を通じて、サリンジャーが長年隠遁生活を続けている（のだそうです）理由を探る、という内容ですが、細かく紹介する紙幅がなくなりました。ただ、普段法律の解釈をやっている（ことになっている）私にとって、文学作品の解釈がたいへん自由に、イマジネーション豊かになされているのが羨ましく思えた、ということを付け加えておきます。

私の図書検索方法～OPACの使い方～

文学部国際文化学科　4年　永　田　香　織

図書館にはたくさんの図書・資料があります。その中から自分の欲しい情報を得ることはそう簡単なことではありません。そこで、私なりの図書検索方法を紹介したいと思います。

図書館には図書検索機械 OPAC があります。図書の名前がわかっている場合、OPAC を使えばその図書の有無、配架場所などがすぐにわかります。図書の名前がわからなくても、キーワードを打ち込めば、その言葉に関係がある図書がたくさん出てきます。こうして自分の欲しい図書を探し出すことができます。

しかし、西南学院大学図書館の OPAC はちょっと使いにくいところがあります。すべてがキーボード入力であったり、大量の情報が出てきたときに印刷ができないのでメモがたいへんだったりします。そこで、私はインターネット検索を使っています。インターネットでは西南の図書館の検索はできません。インターネットで、他の大学の図書館、国立国会図書館、日本書籍協会などを検索し、自分の欲しい情報がどんな図書に入っているか見当をつけます。そして、それを印刷し、その図書が西南の図書館にあるかどうかを OPAC で調べるのです。こうすると印刷した紙に図書の有無・請求番号を書きこむことができてたいへん便利です。また、SAINS ROOM は図書館の中にもあるので、図書館の中で検索はすんでしまいます。もし、西南の図書館に欲しい図書がなくても福岡市総合図書館など他の図書館でおなじように検索をすることができます。

私は OPAC は図書を探すだけでなく、自分の欲しい図書はだいたいどの辺りにあるのか見当をつけるものだと思っています。OPAC だとキーワードの打ち込み方によって、出てくる図書、出てこない図書がありますし、インターネット検索で出てこなかった図書が西南の図書館にある場合もあります。どの辺にどんな図書があるかの見当をつけて、自分で書架を探すことも大切です。例えば、中国の神話について調べるとすると、2階の宗教のコーナー、3階の民俗学・文化人類学のコーナー、4階の中国文学のコーナーに関係のある図書があります。このように、知らなければ図書館では配架場所を見つけるのがたいへんです。配架場所を見つけるために、OPAC を使うと結構便利なのです。

私は入学当初、図書カードを使ったり、とにかく歩き回って図書を探したりしていました。これもなかなか楽しいものです。しかし、レポートや卒論の資料探しではこれだけではたいへんなものがあります。SAINS ROOM も OPAC もせっかく使えるのだから使わない手はありません。みなさんもいろいろなものを図書館利用に役立ててみてはいかがですか？

私の図書館利用テクニック

法学部国際関係法学科　1年　大　坪　　勲

私はこの図書館を主に勉強する目的で利用しています。今はやっていませんが、英検の勉強を家だけでなく図書館でも勉強しました。第2外国語のフランス語の予・復習も図書館でしたことがありますし、基礎演習で使う資料作成も図書館でしたことがありましたが、あの時は「イミダス」という事典が図書館にあったので助かりました。だから私のように個人学習の場として利用するのはもちろん、グループ学習の場としても十分に利用できますし、私も実際そうしています。ただ1つ残念なのは専門書ばかりが多くて、一般の図書館にあるような小説やエッセイといった本が少ないということです。そういう本をもっと増やしてほしいと思うのですが…。

図書館に来てコンピューターを使って本の検索をすることもあるのですが、このコンピューターの存在は非常にありがたいと思います。コンピューターを使うことで探したい本の有無がはっきりするし、本があればその本の分類番号も表示されてて探す手間も省けます。当たり前の事だと思うかもしれないけど、コンピューターが果たす役割は結構大きいと思います。

暇な時には図書館に来て、いすに座って机の上で仮眠をとったりもしています。これはあまりいい利用法とはいえないけど、行くアテがないとか居場所がほしいとかいう人には図書館は最適かもしれません。

図書館という建物そのものを利用させてもらったこともありました。高3～浪人時代までの受験勉強をしていた時、私は正門の写真とこの図書館の写真の2枚の写真を暇な時には見て、「絶対西南の英専に合格するんだ」という気持ちを維持し続けました。「英専」という目標は達成できませんでしたが、「西南」という目標は達成できたので、写真のご利益もあったと思います。

これから4年間の学生生活を送る上で図書館でやりたいこととしては、英検や TOEFL の試験を受ける都合上、TIME や NEWS WEEK といった英雑誌や英字新聞を読んで英文に慣れたり、CNN を見てリスニング力をつけたり、好きな歴史の本を読むなどして有意義に利用していきたいです。

まだあまり図書館を利用したことがないという人はこれから少しずつでもいいから図書館に足を運んでみてはいかがですか。図書館にはあなたがたを退屈にはさせないものがきっとあると思いますよ。

新着図書・視聴覚資料紹介

図　書

＜書名／編著者／出版社／請求記号＞

新・知の技法／小林康夫／東京大学出版会／002.0.57

情報化の学校ーネットワーク社会のルール／吉見俊哉／NTT出版／007.3.108

情報・システム論入門／飯尾　要／日本評論社／007.61.12

福音書とイエス／G.N.スタントン／ヨルダン社／193.6.13

歴史の対位法／義江彰夫／東京大学出版会／204.0.106

古代祭祀の歴史と文学／岡田精司／塙書房／210.3.293

アジアの21世紀ー歴史的転換の位相／天児　慧／紀伊國屋書店／302.2.55

中国情報源　97-98年版／三菱総合研究所／蒼蒼社／302.22.164-2

現代ヨーロッパ社会論：統合のなかの変容と葛藤／宮島　喬／人文書院／302.3.46

アメリカを読む／入子文子／大修館書店／302.53.153

日本人の心のゆくえ／河合隼雄／岩波書店／304.0.379

社会思想史講義／城塚　登／有斐閣／309.02.9

二つのコリアー国際政治の中の朝鮮半島／Oberdorfer, Don／共同通信社／319.21.21

あたらしい法学ー人権・くらし・平和／上野達彦／敬文堂／321.0.58

自治体法務入門／木佐茂男／ぎょうせい／323.9.229

テキスト国際法／瀬川博義／嵯峨野書院／329.0.145

経済論文の作法(増補版)ー勉強の仕方・レポートの書き方／小浜裕久／日本評論社／330.7.30-2

新時代の経済学入門／経済学教育学会／実教出版／331.0.77

経済史／老川慶喜／東京堂出版／332.0.170

国際政治学とは何か／坂井昭夫／青木書店／333.6.463

国際経済学の基礎／藪内繁己／中央経済社／333.6.466

現代貿易理論の潮流／柿元純男／勁草書房／333.6.467

企業・銀行の役割と財務問題／永吉一郎／日本経済評論社／335.0.152

はじめての経済学／森川英正／有斐閣／335.1.70

組織論／桑田耕太郎／有斐閣／336.3.71

経営分析の基礎／前林和寿／森山書店／336.83.66

財務会計／広瀬義州／中央経済社／336.9.82

新しい証券市場の創造／木村由紀雄／中央経済社／338.15.97

日本企業の技術移転ーアジア諸国への定着／岡本義行／日本経済評論社／338.92.80

現代財政の理論／大淵利男／学文社／341.0.22

コミュニケーション研究ー社会の中のメディア／大石　裕／慶応義塾大学出版会／361.45.136

労働法／下井隆史／有斐閣／366.14.68

大学で学ぶべきこと、学ばなくてよいこと／鷲田小彌太／PHP研究所／377.9.95

数学とは何だろう／佐藤泰夫／森北出版／410.0.114

ボディ・ソシアルー身体と感覚の社会学／アンソニー・シノット／筑摩書房／491.04.1

メス化する自然ー環境ホルモン汚染の恐怖／デボラ・キャドバリー／集英社／519.0.182

アジアの環境・文明・人間／山折哲雄／法蔵館／519.04.7

インターネット法学案内ー電脳フロンティアの道しるべ／村井　純／日本評論社／547.48.258

国際交通論／武城正長／税務経理協会／683.0.20

絶対音感／最相葉月／小学館／761.04.2

しくみで考える中国語解読教室／今福正巳／白水社／827.5.16

語学王フランス語／川口裕司／三修社／850.78.18

ディケンズの文学ー小説と社会／西條隆雄／英宝社／930.28D72.7

イギリス桂冠詩人／小泉博一／世界思想社／931.0.110

シェイクスピアーこの豊かな影法師／大井邦雄／早稲田大学出版部／932.Sh12.84

ベンヤミン解読／道籏泰三／白水社／940.28B35.5

ビデオ

日本縦断列車紀行「四季の車窓50選」（全25巻）／ポニーキャニオン／カラー・各30分／291.VT.SHI

「法学文献の調べ方（判例編）」／法律図書館連絡会／カラー・24分／320.VT.HOT

NHKビデオ「ふるさとの伝承」（全30巻）／NHKソフトウエア／カラー・各40分／382.VT.FUR

ユニット折り紙「箱をつくる」、「立体とあそぶ」／筑摩書房／カラー・各30分／754.VT.UNI

瀬戸内寂聴訳「源氏物語」を歩く／講談社／カラー・60分／913.VT.GEN

NHKスペシャル司馬遼太郎「街道をゆく」（全7巻）／NHKソフトウエア／カラー・各50分／915.VT.KAI

（上記は、1998（平成10）年7月～9月の新着図書〈和書〉・視聴覚資料の一部です。）

お知らせ

◎卒業論文のための貸出は、通常とは別に帯出が増えます。貸出係で受付てもらいましょう。

◎休暇期間の長期貸出

冬季休暇

受付開始 12月9日(水)→返却期限 1月9日(土)

春季休暇

受付開始 1月20日(水)→返却期限 4月3日(土)

◎卒業年次生（99期以上）は、2月末日までに帯出中の図書を必ず返却してください。

◎休館日

9月29日(火)～30日(水)	大学休業
11月14日(土)	大学祭期間
12月25日(金)	キリスト降誕祭
12月26日(土)正午～1月5日(火)	年末年始休暇
2月8日(月)～12日(金)	大学入学試験

《人事異動》

◎補職

（1998.7.1～1999.6.30）

図書館委員	新任者	前任者
（神学）	教授 小林 洋一（9/30まで）	教授 G.W.バークレー
	教授 寺園 喜基（10/1～）	
（英文）	教授 江﨑 義彦（再）	教授 江﨑 義彦
（フランス語）	教授 有田 忠郎（3/31まで）	教授 太田 和男
	助教授 真下 弘子（4/1～）	
（商学）	講師 王 忠毅（再）	講師 王 忠毅
（経済学）	教授 村岡 伸秋	教授 吉岡 慎一
（法学）	講師 山田 憲一（再）	講師 山田 憲一
（児童教育）	教授 生野 金三（再）	教授 生野 金三
（国際文化）	教授 岩尾 龍太郎（再）	教授 岩尾 龍太郎

《図書館委員会》

4月13日

①1997（平成9）年度決算について

②1998（平成10）年度補正予算申請について

4月30日

①1998（平成10）年度私大助成申請および高額図書購入申し込みについて

②1998（平成10）年度共通研究図書費、一般図書費および新聞雑誌費の配分について

7月7日

①1998（平成10）年度図書館点検評価委員の委嘱について

その他

編集後記

今回は、「読書のすすめ」シリーズです。主として、図書館委員の先生方に原稿をお願いしました。図書館を大いに利用して、知的豊穣の秋を満喫してください。

（Y.M）

西南学院大学図書館報 No.145 1998（平成10）年10月12日 発行
編集 館報編集委員会
発行 西南学院大学図書館 〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号 TEL（092）841-1311（代）